



左：古い建物ながら、吹抜やロフトなど、縦の空間をうまく使った構造がユニークだ 右：プロジェクト名の「Kariguracy」は、仮暮らしと借り暮らしをもじったもの



大学時代は水産学部。「『ONE PIECE』にあこがれて……」と笑うが、実際は食糧難の問題を知ったのがきっかけだという。当時から社会課題の解決に意欲を持っていたようだ



初めて起業したのは、なんと彼が19歳、まだ北海道にある大学に通っていた時のこと。母親が所有する不動産を管理するための会社を立ち上げた。事業に必要な宅建士資格は17歳で既に取得していたというから、さらに驚かだ。

地元にあった八百屋さんが廃業してしまった。ショックでしたね。八百屋を始めました。予想以上に上手くいったのですが、もともと競争するのではなく一緒に歩む道もあったのではと後悔しました

経営者としてさらなる成長を

気になることがあると、とにかくこの出来事を通して、もっと本気で会社経営を学ばなければ、と競争するのではなく一緒に歩む道もあったのですと後悔しました

日本の住まいを もっと自由に

住宅を所有or賃貸の二択ではない

く、シェアハウスや民泊など新しい形態にして住まいの方の自由度を高め、所有者側の利益も上げる……それが源さんが代表を務める会社「株式会社LIVMO」のビジネスだ。現在の仕事について話す前に、まずは彼が歩んできた道を紐解いてみたい。ド肝を抜かること間違いなし！

「近くでおいしい野菜が採れるの

に、スーパーにはなぜ他県で採れた野菜ばかりが並んでいるのだろう

う、という素朴な疑問から自分で八百屋を始めました。予想以上に

いう思いが募っていったという。

22歳の時には、なぜか八百屋を開業。近くで採れた野菜をその地域で販売し、生産者にきちんと収益が入る仕組みづくりを行った。

ビジネスとしては成功だったが、ここでショックな出来事が起

こる。

地方の中に埋もれてゆく危機感に

もあおられ、ついに上京を決意。大学を3年で中退し、かわりに社

会起業家を育成するビジネススクールに入学する。この学校でシェ

アリングエコノミーの概念に触れ、現在の仕事につながるビジネスモ

デルを思いついた。「自分が住みながら、使っていない部屋を貸し出

すようなサービスが、ごく当たり前にできる時代がやって来る」と確信したという。24歳にして3度目の起業だ。

面白い家があれば即入居！ 若き起業家が目指す 住まいと暮らしの未来像

17歳で宅地建物取引士の資格を取得、19歳で初めての起業。これまで体当たりで挑戦を続けてきた源さん。仕事中心に生きる彼が、次に見つけた目標とは？



FILE: 01

PROFILE

源 有輝さん

(株)Livmo 代表取締役社長
<http://livmo.co/>

- 出身地：北海道
- 生年月日：1988年8月7日
- 小学生のころの夢：建築士と宇宙飛行士
- 小学生時代のマイブーム：学研の図鑑

ROOM DATA

- 所在地 東京都港区
- 家賃 324,000円
- 間取り 6SLDK(170m²)
- 築年数 36年



起業してから苦労したことは、なんと言っても資金繰りだという源さん。利益が出ない時期も経費はかかる。パッションだけではやっていけないことも学んだとい

これまで、持ち前の体当たり精神と強運で会社経営を行ってきたが、抱えるスタッフが増え、プロジェクトの規模も拡大。より合理的な判断が求められるようになってきた。そこで1年後には経営や経済をより深く学ぶため、会社経営を続けながら再び大学に入ることを公言している。座学で学んだ知識を仕事の現場で活かし、現場で学んだことを座学で補うことで、より見識を深めようという狙いだ。

5年後には経営者としてさらに一步成長するため、MBA取得を目指して海外に。同時に海外支社の設立まで視野に入れている。そして10年後の目標は……ハウ

スサーフィン? 豊かさとは、多
く現場に飛び込み、動きながら課題を解決していくのが彼のスタイル。ホームレス支援に取り組んだ時には自分たちが暮らすシェアハウスで家のない人たちと同居して彼らに管理人のようなことをしてもらつた。それだけでなくホームレスの実態を知るために、自身が1ヵ月間、家ナシ生活を経験した(ー)というからブツ飛んでいる。

源さんの

NEXT 10 YEARS

- 1年後 経営者or政治家orコーヒー農家、目指すものを決める
- ▼ 3年後 大学3年生、経済を学びながら経営に活かしている
- ▼ 5年後 海外支社設立。同時にMBA取得を目指し学ぶ
- 10年後 スナフキンのようにいろいろな家を住み歩いて暮らす

「何よりもまず自分がいろんな家に住んでみたいから、このビジネスを始めたというのはありますね」



3階のリビング部分。レンタルスペース検索サイトでの貸し出しを行っており、予約が入っていない場合は「Livmo」のメンバーが仕事場として使う。ダイニング部分とつなげればイベントスペースとして使うことも



左: 駐車場と3つの倉庫をそれぞれ貸し出している 右: スマホで荷物の受け渡しができる宅配ボックス。小さなスペースも利益に



上: 会議室。夜はスタッフの寝室になる
左: 源さんの寝室。物が少ないので、日中は貸し出しているため



現在の主な事業は、シェアリングに適した構造へのリフォームやそのコンサルティングなどだ。また、直接シェアリング物件の運営もしている。実は現在、事務所兼自宅として入居している賃貸物件がまさにそれ。1階が駐車場と倉庫、2階3階が住居というユニークな造りで、6SLDKのうち、会社で継続的に使っているのは3階部分のLDKのみ。使っていないスペース……倉庫や駐車場はもちろん、空き部屋、テラスまでも時間制で貸し出している。2階は源さんと社員の寝室になつていて、が、そこですら不在にしている時はレンタルしているというから凄い。

「ここに住んでいる限り、プライベートはないです(笑)。でも、こんなに狭いスペースでもきちんと利益を生み出せる、ということに何だかワクワクしませんか? 資産やノウハウを囲い込むのではなく、みんなでシェアして社会全体を良くする。そういうことに快感を得るタイプなんです。何よりもまず自分がいろんな家に住んでみたいから、このビジネスを始めたということがありますね」

この建物を見つけた瞬間、シェ

様性を受け入れる社会だと彼は考える。戸建、アパートといった既存のカテゴリーにとらわれず、木の上や船の上の家、コンテナハウスなどあらゆる形態の家を実現し、人々が自由に住まう。そんな社会にするこことを目論んでいる。そして彼自身も、家を気ままに移り住む暮らしを送るつもりだ。現状では幾多の障壁が立ちはだかっているが、きっと彼なら実現してしまうことだろう。